

(1) タイトル：令和2年度伊根町一般会計第5回補正予算

補正額 2億1020万4千円増額

提案理由 補正の必要が生じた

令和2年第4回定例会は、12月9日から18日までの10日間の日程で開催され、補正予算8件、条例の制定・一部改正6件、人事案件1件、その他3件を審議し、すべて全員賛成で可決・同意し閉会しました。

予算質疑

問 感染対策事業について。体温を測定とは、具体的にどんなものなのか。

答 自立式でタブレットより37.5度以上の方を検知した時はアラートが鳴る。

問 設置場所は。

答 庁舎の正面玄関と、地域整備課入口、保健センターと2つの診療所に設置を考えている

問 サーモグラフィー正確さは。

答 他の自治体でも納入実績等を判断した。利用状況を見ながら、ほっと館への設置も検討する。

問 37.5度以上の場合、別の体温計で再度検温するのか。

答 再度検温を実施。濃厚接触の定義にあたらぬ範囲で感染予防に努めながら対応する。

問 魚群探知機は、特殊仕様なのか。

答 一般的な魚群探知機で潮流計を設置し観測しながら使用します。

問 マイクロバスの更新の納期は。

答 半年ほどかかると聞いている。

問 本庄小学校のシュレッターについて。民間の販売価格あまりにかけ離れている。

答 無駄な使い方にならないよう詳細な性能、使用頻度を分析し、適切なシュレッターを導入する。

《討論なし》

《採決》 起立全員により原案どおり可決



○令和2年度伊根町国
正予算

民健康保険特別会計第3回補

・事業勘定

補正額 総額は変わらず

主な内容 一般会計繰入金 ▲63万5千円

・伊根診療所勘定

補正額 総額は変わらず

主な内容 後期高齢者診療報酬収入 ▲334万3千円

・本庄診療者勘定

補正額 総額は変わらず

主な内容 後期高齢者診療報酬収入 ▲6万7千円

○令和2年度伊根町簡易水道特別会計第2回補正予算

補正額 総額は変わらず

主な内容 財源補てん繰入 ▲11万4千円

○令和2年度伊根町下水道事業特別会計第2回補正予算

補正額 2万1千円

主な内容 財源補てん繰入

○令和2年度伊根町財産区特別会計第1回補正予算

補正額 118万8千円

主な内容 森林整備事業

(2) タイトル：町政を問う 2人の議員が一般質問

①〇〇 〇〇議員

Q 釣客との共存が必要では。

A 漁業者、地域住民、釣客等意見を聞き、対策を検討する。

問、コロナ禍の中、屋外で密にならない釣りがブームとなっている。伊根地区でも多くの釣客が来町し町営駐車場は一杯となり、亀島地区では路上駐車、車のUターン、離合等で多くのトラブルが発生している。町営駐車場護岸は漁港施設であり漁業者と釣客とのトラブルも多くある。カルビ海岸のように釣客の車を締め出しても自転車、歩きで来るという「いたちごっこ」となっている。多くの敷地をもつ漁協の一部を有料駐車場とし護岸の一部を開放してもらい、伊根郵便局附近に有料駐車場を作り亀島地区への観光客の車の進入を規制する等、排除ばかり考えず、観光資源とし利用し、共存する政策も必要ではないか。

答、釣客に対しマナーの啓発は看板を設置し行っている。違法駐車対策は町営駐車場を整備し、府道沿いに進入禁止ポールを多く設置し対策している。しかし最終解決策として多くの駐車場を作る事だと思っている護岸よりの釣りは漁業活動に支障のない限り自由であり釣客を排除する事はいたちごっこで現実にそぐわないと思っている。地域からの要望があれば駐車場設置を考えたい。漁業者、地域住民、釣客それぞれに意見があろうと思う。各方面の意見を頂戴し三方よしの対策を検討していきたい。



②〇〇 〇〇議員

Q 農業の振興方策は

A 懇談会を開催し農政に活かしたい。

問 伊根町の農業は、水稻、そば等の土地利用型農業と、みず菜、九条ネギなどの施設園芸中心の集約型農業と畜産との3つに分けられる。近年は施設園芸の増加と新規就農の増加、筒川そばの作付推進、農業法人の設立等で耕作放棄地の急激な増加もなく水田利用が進んできた。しかし、町内各集落の状況を見ると今後も今の状況で推移できることは望めない。農地を守るには、現状では、施設園芸を充実しつつそばの作付け推進、米の有利販売で農業を推進していくしかないが、そばの作付は何処まで伸ばせると考えているか。また、米の有利販売について、有機栽培などの生産技術の統一で伊根ブランド米を作り、有利な価格で販売できるような研究が早急に必要ではないか。その体制作りが急務。農業者の意見を聞く場を設けて、町としての方向性を探ってみるのはどうか。今後の農業振興策について町長の考えを伺う。

答 そばの作付は、近年は15haと横ばいで推移している。(株)筒川そばでは、毎年7～8トンは確保したいと聞いているが、まだまだ需要はあり今の倍、30haくらいは作付可能と思う。ブランド米については、丹後では「京都丹後産コシヒカリ」が銘柄として定着しており、伊根産をブランド化せずとも丹後産として一定のブランド化は出来ている。農地を守るために農産物の6次産業化と、残す農地とあきらめる農地の線引きをしっかりとし、残すほうへの取り組み支援の充実に努める。また農業者との懇談の場は、ほとんどなく、これからは農業者等との懇談会を開催し、多くの意見を頂戴し農政に活かしたい。農業のみならず漁業も含め、伊根町の基幹産業である農林水産業をベースに豊かな生計が立てられるよう、今後は今まで以上に皆さんと共に考え、振興発展に努めたい。



(3) タイトル：令和元年度は、こんな事業に使われました。

- ・防災行政無線事業 1億2000万円
防災無線の運用管理といねばんタブレットの購入と整備



- ・滞在体験型まちづくり事業 1700万円
- ・管理業務と追加工事および備品購入
- ・災害に強い森づくり事業 2993万円



- ・町道管理事業 7925万円
亀島本庄浜線（泊、本庄浜、本庄上）



- ・林道管理事業 745万円



- ・災害復旧 2億4200万円
被災した各地の農業施設、道路、河川の災害復旧

